

經濟論叢

第十六卷 第二號

労働市場論なき賃金論……………	岸本英太郎	1
ブルック・ファーム……………	穂積文雄	19
イギリス革命における農業・ 土地問題分析の視角……………	尾崎芳治	47
社会科学のひとつの立場……………	出口勇藏	61
《記事》		
昭和三十五年度京都大学経済学会大会における公開講演 および研究報告の要旨……………		74

昭和三十五年八月

京都大學經濟學會

階級・成層および社会的水準化

内 海 洋 一

第二次大戦後、諸外国においてもわが国にあっては、社会階級 (social class) や社会成層 (social stratification) の研究が盛んに行われている。殊に、成層については実証的研究が成果をあげつつある。私は、この階級と成層の關係を考え、一種の中間項として「勢力成層」の概念を設け、それによって社会的水準化の長期的傾向を分析しようと思う。

階級は、財産・所得・家柄・職業等々多くの要因によって定まる。これらの要因は、人に服従される力を持つ。これを社会的勢力と呼ぶ。

成層は、財産・家柄は元より身長・知能指数・兄弟の数等あらゆる標識に基く社会の上下の区画である。その標識は、上下という比喩的表現を許すような量的なものであればよい。成層区画の無数の標識の一部に、勢力の性質を備えたものがある。これを勢力要因という。

各勢力要因別の成層が勢力成層である。また、部分社会における諸勢力による成層も勢力成層といつてよい。勢力成層の総合されるところに階級が成立する。

よい家柄の者が財産も持ち学識もあるという風に、勢力成層が重なれば階級懸隔は大きい。しかし、社会分化が進めば、Aは所得において秀で、Bは社会的尊敬度において秀でるといふ風に、勢力成層が交錯すると見られる。そして、勢力成層が交錯する限り、階級懸隔は縮少する傾向を持つ。すなわち、社会的水準化は進行する。

(大阪大学助教授)